自由南アフリカの声
Voice of Free South Africa

2004年10月
No.36

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会
Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2004年10月の報告と予定

- 5月　JICA事業HIVピア教育の学校訪問
- 7月　富士見市より移譲の移動図書館車を再整備
- 7月　河合塾収集の本等を31985冊南アへ送付
- 7月　南アの教育大臣と会見　移動図書館プロジェクト推進の依頼を受ける
- 8月　南ア連絡員一時帰国
- 8月～9月　南アを訪問
- 10月　南アにて移動図書館プロジェクト会議
- 12月　南ア連絡員一時帰国　報告会

目次

南ア訪問特集

4年振りの南ア訪問 …… P 2
初めての南ア同行記 …… P 7
初めての南アフリカ …… P 8
春を告げる雨に迎えられ …… P 9
河合塾の本が、8月南アに到着 …… P10
主な活動 …… P11
寄付・会費・本などを下さった方々 …… P12

先生も移動図書館を大歓迎

4年ぶりの南ア訪問(8月25日～9月5日)

野田千香子

２００４年８月～９月の１０日間に４年振りの南アを訪問した。過密なスケジュールだったが、充実した訪問であった。同行したのは、最近 TAAA に参加するようになった会員の関根章博さんと名古屋の学校法人河合塾で南アへ送る本の収集を担当して下さっている宮崎敦子さんだ。私は南アに関わり始めて１４年。７回目の訪問。関根さんと宮崎さんは初めての訪問になる。南アでは、南アに在住する連絡員の平林薫さんと蓮沼忠さんが行動を共にしてくれた。お二人の協力無しには今回の訪問の成功はなかったと思う。

訪問に４年のブランクができた理由。

それまでは政府関係の助成金を受けた関係で、１年に一度「現地へ出向いて指導する」という項目があったこと、また２００１年からは南ア在住の平林薫さんがＴＡＡＡの連絡員になったくれたことによってこちらから出向かなくて済んだこと。今回は諸理由により、各自の自費で訪問することになった。

南ア･ソニー前社長

蓮沼さんはついこの６月まで南ア・ソニー社長だった。５年の間に南アでソニーの会社を成功させた後、退職されるにあたり、縁のあった南アの人々にお返しをしたい、それには南アにとって最重要課題である「教育の発展」に貢献したいという気持ちを持たれていた。たまたまＴＡＡＡの移動図書館の存在を知り、この先、南アに残り、移動図書館の普及のために尽力すると言われている。すでに南アの教育大臣と会見、政府からの支援を依頼し、了解を得た。広大な国土を持つ南アで、「教育」が重要課題の一つでもある政府の方針と移動図書館車の普及はぴったり合致しているという理由で大臣も大乗り気である。

教育省の担当官と各州の図書最高責任者と５人で「移動図書館プロジェクトチーム」を立ち上げ、答申書作成会議を開始した。移動図書館を全国に展開していくためには、

ヨハン校長とジェネット　ズアールにて

子どもたちと話す（左端、蓮沼、野田）

中央・地方政府の政策と予算が必須となってくる。

この蓮沼さんが西ケープ州とハウテン州と北西州の８日間に同行し、クワズールーナタール州では平林さんが２日間、行動を共にして下さった。

８月２６日（木）　２５日に日本の家を出てから２６時間で早朝にヨハネスグルグ到着。蓮沼さんと会い、共に国内便にてジョージ空港へ。ケープタウンから数百キロの町オーツホーンに宿泊。

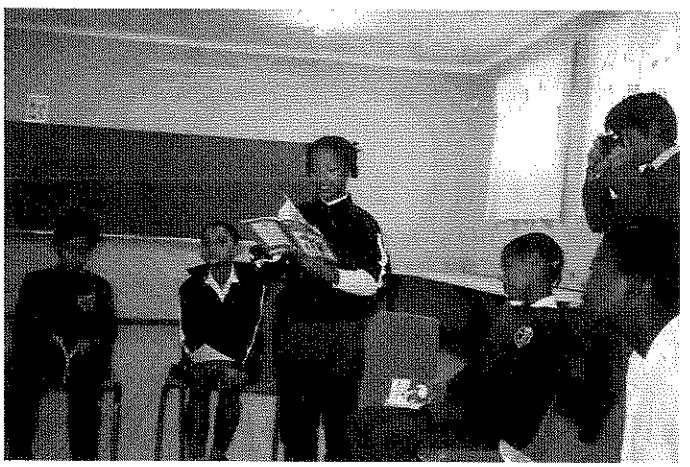
８月２７日（金）ズアール移動図書館訪問

★　蓮沼さん運転のレンタカーで１時間。ズアール移動図書館へ。荒涼たる山岳地帯と冬枯れの果樹園を行く。ズアールは田舎の小さな村だ。収穫期に雇われる季節労働者が多く、通常は失業している人が多い。このズアールの地に 2002 年から移動図書館車が稼動している。責任者のジェネット・ヘラルディンとヨハン小学校長が迎えてくれる。５校は２５キロ以内を巡回。６校目は６０キロ、新５校から頼まれているが７３キロの遠隔地だそうだ。移動図書館車が来てから字が読めるようになったお年寄りが老眼なので大きな活字の聖書もほしいと言っていたそうだ。たくさん本を読むようになった子どもたちが朗読して聞かせてくれた。

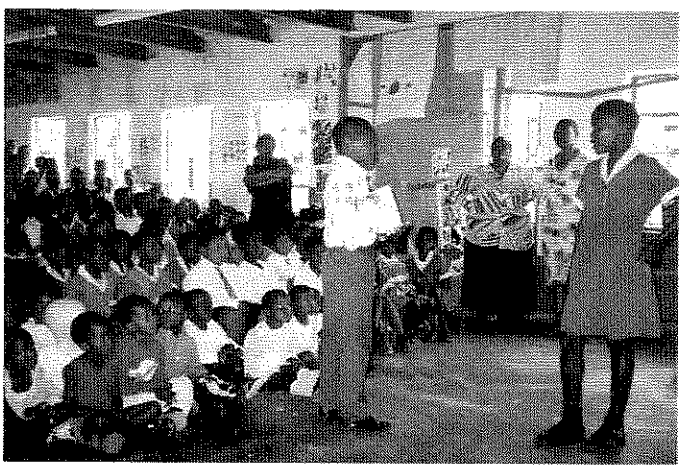
★　夕方、空路、ケープタウンへ移動。

８月２８日（土）　エルギン移動図書館を訪問

★　ケープタウンから車で１時間。エルギン・ラーニング・ファンデーション（ＮＧＯ）を訪ねる。代表のウォーカーさん、州教育省のサラ、職員のヴェロニカやマクソニア小学校の校長先生とミーティング。ここでは現在８校に巡回しているが、４校増やしたいと要望。先生もエルギン職員も教育に真剣に取り組んでいるのがわかる。同校はエルギンの指導で構内に菜園も作り、保護者も巻き込んでいこうとしている。サッカーや花の絵が校舎の壁いっぱいに描かれた暖かい雰囲気の学校だが、ここでもエイズへの警告を告げる言葉が大きく壁に書かれている。土曜日にもかかわらず、学校へ来た子どもたちが読書による成長の成果を朗読や寸劇などで見せてくれた。３台目として同州の南部（ケープタウンから 200 キロ）に昨年送った車について教育省のサラに話を聞く。まだ稼動



本を読む時間　エルギンにて



「図書館の本を大切に」という寸劇

していない事情を調査に蓮沼さんが近々訪問しようと話し合った。

8月29日（日）　日曜日　旅程中、唯一の休日として、原生の花園へ行く。この時期しか見られない花々が咲くウエストコースト国立公園はケープタウンから１００キロ余。厳しい乾燥期を耐え、やっと降った雨の後に、地平線まで一斉に咲く花々は、やさしく清らかで、日本の高山植物と相通じるものを感じた。夜、蓮沼さんはヨハネスブルグの自宅へ。野田、宮崎、関根は空路ダーバンへ。ダーバン在住の平林さんと会う。ダーバンに宿泊。

8月30日（月）ＫＺＮ州移動図書館を訪問

★　ダーバンを６時に出発。ウルンディ（ダーバンより２５０キロ）へ。クワズールーナタール州教育省が運行する移動図書館を訪問する。移動図書館の巡回先の一つであるマダカ小学校を訪れる。この地域では日常的にはズールー語が使われているが、学校では１年生から全て英語で授業が行なわれる。ズールー語の授業も英語で行なう。政府は給食制度を始めたが、この地域には予算が下りてきていない。昼食のとれない子も多い。片道２時間以上（８～９キロ）歩いてくる子どももいる。移動図書館が始まって子どもや教師が本に接する機会が増え、要約する力がつき話の内容も豊富になってきたそうだ。

8月31日（火）JICAプロジェクトのエイズ教育を行なう学校訪問及びELET訪問

★　７時に平林さんと出発。TAAA と１０年のパートナーを組む教育ＮＧＯであるＥＬＥＴに立ち寄り、HIV/AIDS ピア教育プロジェクトの指導員であるノントレと共に、ンドゥエドゥエ地域へ向かう。ノントレは知性と沈着さを具えたプロジェクトに相応しい女性だ。ダーバンから約１時間で到着した先はシセベンジレ中等・高校（中２～高校３）。５４６人。初年度の生徒数が１６０人でも最終学年は２０人くらいになってしまうという。８割が片親か両親のいない家庭。理由は不明の事が多い。休んだり連絡がなかったりするうちに来なくなってしまう。校長初め、教員、生徒が熱心にエイズの教育に関わっている学校の一つである。高校生たちが創作したエイズにまつわる寸劇を見せてくれた。表現力が豊かで面白い劇だった。最終学年の数が減るとはいえ、中学高校に通える子どもは近隣では恵まれているようで、前日までに訪ねた小学校の子どもたちの平均より体格が良いようだったが、弁当は持ってきていない生徒が多い。持ってくる生徒もおやつ程度を校舎の周りで何気なくちょっと食べる、というふうで日本のように昼食時間に一斉に・・ということはない。

先生たちは生徒が健康で社会に出て仕事にも就けるようにと、必死に願っているのがよく伝わってきた。先生もリーダーの生徒も「コンドームを使おう！」と繰り返し呼びかけた。エイズはその被害が直接間接に降りかかってきているが、コニュニティの中では、タブー。具合が悪くても魔法を掛けられた、と言う人もいる。JICA の援助によるこのＥＬＥＴの行なうエイズ教育で子どもたちはエイズについて学ぶだけでなく、相手を大事に思う心も学んでいく。生徒の寸劇や先生の話を聞いているとノント

「エイズは祈祷師には治せない」寸劇

大歓迎の子どもたちと（中央 野田）

レの指導が浸透していっている事が分る。

南アが本当に大好き、という平林さんは何処へ行っても人気がある。ここでも生徒のパフォーマンスの後に挨拶すると、すでにワークショップで顔見知りの生徒もいて、大喝采を受けた。平林さんは日本と南アを結ぶ大事な架け橋役を果たしている。

★　ダーバンの ELET 事務所を訪問。代表のマーヴィン・オグルと久しぶりの会見。10 年来の知己。私と同い年の 64 歳。お互いに今しばらく、頑張りましょう、と励ましあった。宮崎さんが中心になって河合塾で集めて出荷して下さった約２万８千冊の本も無事にＥＬＥＴが受け取り、北西州に転送してくれた事が分り、ほっとした。

９月１日（水）　ＫＺＮ州教育省と午後はプレトリアへ

★　朝一番にダーバン市内の教育省図書情報部のシボンギレ・ンジマンデを訪ねる。ンジマンデは蓮沼さんの移動図書館チームの立ち上げのメンバーの１人だ。ＫＺＮ州ではさらに８台の移動図書館車の運行を考えている。ここでは私たちが日本で冊数や種類を書いたなつかしいダンボールから本を出して数人の女性が分類整理していた。日本から送られてきた英語の本は有効に使われていると感謝の言葉をもらった。

★　午後、空路、ヨハネスブルグに到着。ここからは蓮沼さんと行動を共にする。プレトリア図書館へ向かう。ここで、同じくチームのメンバーとなるハウテン州教育省のブシ・ドラミニとミーティングを行なう。ハウテン州には 1200 校あるが、そのうち移動図書館が行っているのは、３２校にすぎない。運行の予算がもっとほしい。移動図書館の更なる展開への強い意志が語られた。そのためには南アの教育大臣の要請が必要になる。移動図書館チームは大臣へ答申書を作成中である。

★　夕刻、日本大使館に担当官を訪ね、草の根無償資金についてお話しを聞いた。

９月２日（木）　ベノニの移動図書館車を訪問

★　デベトン小中学校をベースに 1997 年から使っている TAAA が送った最初の車が活躍していた。マンデラ小学校の校長の話。移動図書館車は教師にも生徒にも非常に良い影響をもたらしている。生徒の家にはほとんど本はないが、図書車のお陰で読書力が向上している。このエトワトワ地区では８６％の家庭が片親か親がいないかである。

★ 午後はJVCの事務所に津山直子さんを訪ね、ANC東京事務所時代の話などした。夜は毎日新聞ヨハネスブルグ駐在員の白戸圭一さんと食事をする。

9月3日（金）　教育省教育企画課長マセコとミーティング　北西州教育省訪問

★ 蓮沼さんの発案・実行による「移動図書館プロジェクトチーム」の重要メンバーはパンドール教育大臣の下で実務を担当するマセコ教育企画課長である。朝、空港へ急ぐマセコ氏とコーヒーショップで会見。TAAA の１０年の活動実績を説明する。移動図書館推進のための答申書を教育大臣に提出する際には私にも同席してほしいと言われた。

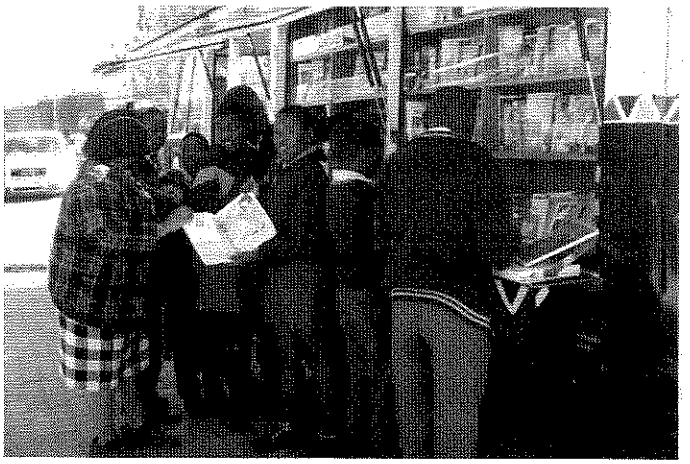
★ 蓮沼さんの連日の運転でこの日も３００キロ離れた北西州マフィケンへ向かう。潅木の荒野が続く。４時にやっと到着。ものものしい警備員にカメラを禁じられ、緊張しながら州の教育大臣と図書情報部のモリーンと会議を持つ。北西州の教育大臣は私たちの話に耳を傾け、移動図書館プロジェクトに好意的な返事をくれた。モリーンの仕事もやりやすくなる事が期待できた。（帰国後、ELETから転送された本がここに無事に到着したとの連絡が入った）ヨハネスブルグのホテルに戻ったのは夜中に近かった。

9月4日（土）　ＭＥＩ代表のベントレイ宅へ

★ 10年前に初めて南アを訪れた際に泊めてもらったベントレイさんの家を訪れる。９歳だった長男スティーブンは見上げるような長身の大学生になっていた。グラハムタウンの魚類博物館に貸していた移動図書館車をMEIに戻し、次の１台と合わせて来年から３台でベノニ全域に運行したい、とベントレイは話していた。

★ この後、一路、空港へ。蓮沼さんはヨハネスブルグに残り、３人は帰国した。

早朝から深夜までハードな旅程でしたが、新鮮な魚や肉を食べ、花を見て、子どもと先生の笑顔に接し、疲れも吹っ飛ぶ旅でした。同行の皆さん、有難うございました。平林さんと蓮沼さん、引き続き南アでのお仕事、ご苦労様です。国内でも皆、頑張ります。



移動図書館に本を借りに来る生徒たち

移動図書館プロジェクトチームのブシと会議

初めての南ア同行記

蓮沼 忠

今までの仕事の一環として日本などからのエンジニア、セールス等の訪問者を現地アテンドしてきたが、ボランティアの人々は初めてなので、少々期待と不安があった。平林さんと相談の結果、出来るだけ多く見てもらうスケジュールを組んだが、病気もせずに元気一杯、強行軍をこなした。この辺りは日本のビジネスマンと同等と見受けました。(註)

また、人口が日本の3分の1、面積が3倍の南アなので、訪問するには長距離ドライブしましたが、結果的には南アの貧しい人は図書館に行く術が無く、いかに移動図書館車が有効か肌で理解していただけたと思う。

行く先々の学校での先生、生徒の歓迎振りとお礼の言葉の中に、また、南ア教育省の図書館車答申書作成依頼にも、TAAA の今までの着実な活動への評価が感じ取れる。今後もぜひ、現地より TAAA の活動を支援したいと思います。

(註 ビジネス界におられた蓮沼さんはボランティアを宇宙人かと思われていたのか「ボランティアの方々というのはどんな物を食べておられるのでしょうか？」としきりに聞かれていました。 野田)

プレトリア図書館にて（関根、ブシ、野田、蓮沼、手前は宮崎）

南ア直輸入健康茶ルイボスティ

南アで採れる健康茶です。赤ちゃんからお年寄りまで安心して飲んでいただけます。

売上の一部は活動費になります。

ルイボスティ(1箱 80 パック) ・5 箱で 1万円(税・送料込) ・4 箱以下…1箱 2000 円(税込み・送料 500 円)

ハガキ、ファックス、e-mail で、名前、住所、電話、箱数を当会までお知らせください。

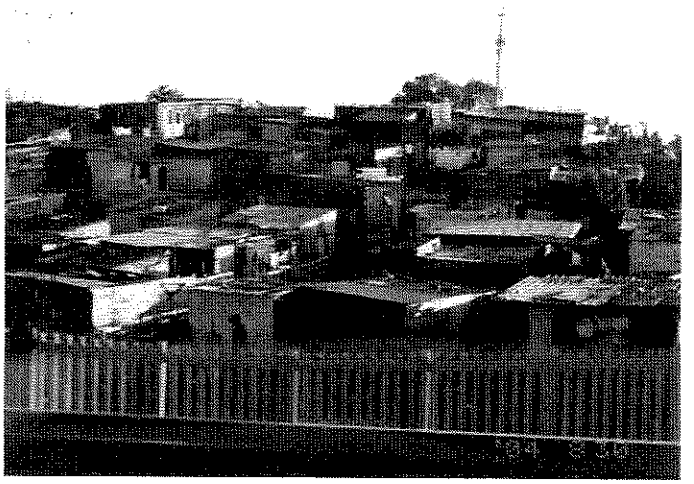
初めての南アフリカ

関根　章博

TAAA メンバーになって日の浅い自分が南アフリカに行こうと思った。この会に参加するようになった理由…会社を退職してから海外青年協力隊で理数科教師になりたいと思っていました。結局、協力隊に参加することなく家業を継ぐことにしましたが、何かアフリカに関わることができないかとボランティアを探して見つかったのが TAAA でした。

日本からシンガポール経由で20時間以上かかりヨハネスブルグに着きました。ここから更に国内線に乗り換え、ジョージへ。機内の窓から見える景色はオレンジ川以外は乾燥した大地が広がっていました。山脈を越えると徐々に緑が増え、ジョージの空港へ到着。今回訪問する学校の内の一つが車で2～3時間のズアールにあります。いよいよ日本から送られた本や移動図書館車が見られると思うと、気持ちが高まります。ズアールの小学校ではヨハネ校長先生に出迎えられ、利用の実態を見ることができました。日本で本を梱包していたときは、本当に本が使われているのか？本が無い位だから移動図書館車だって満足に走らせることができないのではないか？等の疑問を持っていましたが、実際に移動図書館車に列をつくって本を返しにきている子供たちをみて疑問は晴れた。本棚には子供たちが喜びそうな本が並んでいます。車はスポンサーがついて燃料費が賄われており、メンテナンスにおいては町内に整備士がいます。「平日は子供たちのために移動図書館車が動かなきゃならないから、土日しか整備ができないんだ。」という整備士の言葉に、地域ぐるみの協力体制があることがうかがえます。現地で初めて知ったことですが、子供たちの教育以外に成人教育も重要であるとヨハネ校長先生がおっしゃっていました。大人でも読み書きができず、その結果として職につくための勉強もできない人たちが大勢いるのです。TAAA の送った本や移動図書館車は、そのような人たちにも大いに役立っていると聞きました。初めての南アフリカ、初めての学校訪問は大成功でした。

今回、いくつもの学校、NGO を訪れました。どこでも共通していることは、コミュニティー全体で協力していることでした。まだまだ本や車が足りず、子供たちが本を読む機会の少ないところもありましたが、先生方が教育熱心であることは変わりありません。帰国してからフィルムを整理しています。一枚一枚を眺めて、話したり見たりしたことを思い出します。どの写真にも子供たちの元気な姿があります。この子達の将来が楽しみです。



屋根の低い家が続く　ダーバン

春を告げる雨に迎えられ

宮崎 敦子

春を告げる雨に迎えられ、8月26日ヨハネスブルグ国際空港に到着した。この国では季節も、太陽が登る方角も、日本とは逆なのだ。改めて驚いた。驚いたと言えばサバンナの野火。乾燥した草木が自然発火し、めらめら燃えていた。蓮沼さん曰く、これも南アの春の風物誌らしい。

野火は、時速120キロの車でヨハネスブルグから西に4時間以上走らせたところにある、ボツワナ国境近くの街マフィケン(北西州)に行く途中、延々と続くサバンナで多く見かけた。これほど乾燥している土地は、大部分が手つかずの荒野だった。東海岸にあるダーバン周辺は同じ時期に、緑の木々に覆われており、1年中サトウキビの栽培と収穫を繰り返せるほど温暖湿潤な気候である。

私は南アを訪れる前に疑問を持っていた。アパルトヘイト撤廃13年後の今でも、生活状況はあまり変わっていないと聞いていたが、本当だろうかと。今でも黒人居住区では上下水道や電気などインフラが整っておらず、衛生状況が悪いというが、21世紀を迎えて、さすがの南アもそういう地域はなくなってきたのではないか、人種間格差なんて、もう古い話なのではないか、と。

しかし、今回の南ア訪問で見てきたのは、そのとおりのことだった。

子どもたちを見た。マフィケンというプラチナ鉱脈で経済的に潤っている街だった。教会があり、併設の美しい学校の柵の中にある緑の芝生の上で、遊具で戯れる白人の子どもたち。道を挟んで反対側のスーパーマーケットの駐車場で、出入りする客にお金をせびる、垢まみれの小さなストリートチルドレン。学校で授業が行われているウイークデイにどれだけ多くの黒人やカラードの子どもたちを街なかで見かけたことだろう。

マフィケンに限らず、都会にある黒人居住区でも、小さな家々にはトイレなどなく、公衆トイレが家の目と鼻の先にあるが、足りるわけもなく、多くの人が外で用を足している光景もあった。か細い電柱1本から何十という電線が伸びて、電気を引いている家もあるが、あれだけ広大な黒人居住区の電力を賄うにはその電柱も少なすぎると思えた。

一方で、白人が住む小高い土地では美しい邸宅が広々とした庭やプールを備え、清潔で近代的な暮らしを営んでいる。とても同じ国とは思えなかった。

今回、多くの学校を訪れ、トイレがない、給食制度があるのに給食が届かない、親の収入が安定しておらず、家でもきちんと食事がとれない子どもが多いなど、厳しい環境であることがわかった。アパルトヘイト撤廃後13年の今では、もう白人が悪いという時代ではなく、かつての悪政の余韻から少しでも早く解き放たれるよう、すべての人種の子どもたちがちゃんと教育を受けられる環境作りが、国全体のレベルアップにつながると言うことが、ますます確信できた。

それにしても、あの大勢のストリートチルドレンは一体どうなっていくのか…。まだ10歳にもならない、あどけない子どもも見かけた。これから思春期を迎え、青年期を迎え、大人になるまで生きながらえることが出来るのだろうか…。

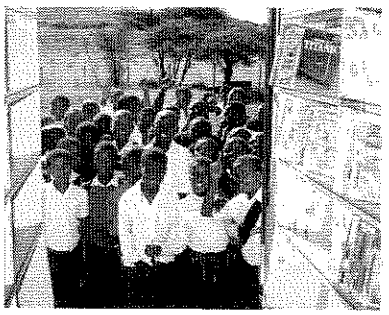
夏の終わりの日本に帰る機内で、南アの生徒たちの美しいコーラスを反芻しながら、頭に焼き付いたストリートチルドレンの面影が浮かんできて、涙を抑えられないでいた。

河合塾の本が８月、南アに到着

２００３年１２月～０４年３月にかけて、河合塾では南アフリカ教科書寄贈支援活動を実施しました。０１～０２年にも実施し、全国の高等学校・予備校・河合塾生に呼びかけておこなった活動の２回目となります。大変多くの方々のご協力のおかげで、価値ある書籍をたくさん送ることができました。

全国から集まった英語の教科書・書籍は約３万冊にのぼりました。本の種別・梱包作業は、３月２２日から６日間、計１５人の塾生が主体となって行ってくれました（写真１・２）。

↑いざ南アへ、名古屋港を出発する船



全部で２７０箱になったこれらの書籍類は、７月１５日（木）に名古屋港を発つ船に積まれ、マラッカ海峡を通過し、インド洋を渡って、無事８月８日（日）にダーバンに到着しました。南アへ向けて出荷する船の予約がなかなかとれず、３ヶ月という時間がかかりましたが、ＴＡＡＡのご尽力で無事に届けていただくことができました。

これらの書籍はこのあと北西州の教育省に送られ、学校やコミュニティで利用される予定です。　　（河合塾メディア教育事業本部　宮崎敦子）

●教科書・書籍回収結果報告●

（１）教科書・書籍寄贈にご協力頂いた数

高等学校　１９８校　　予備校・塾　６校　　個人　８人　　企業　１社　　河合塾全国各校舎

（２）寄贈書籍数　　計約３万冊（第１回目とほぼ同数）

（３）作業ボランティアに参加した塾生達の声

・思っていた以上に体力仕事で、とても大変だった。地道な作業であり、また、すごい量の教科書に囲まれ、終わりがとても遠くに感じられたが、仲間と協力し合えることができ、楽しい日々を過ごせた。この活動によって南アの子供達の教育の援助に生かされることを心から願ってます。

・教科書を詰め込みながら、これを異国の子供達が使って勉強すると思うと感慨深いものがあった。

・南アのことについて少し知ることができたし、大学でもアフリカや中東の地域について勉強していきたいと思っていたから、良かった。

←全国から集まった教科書を仕分けする名古屋地区の塾生の皆さん（写真１）

トラックに教科書を積み込む職員

↑仕分け＆梱包完了！！（写真２）

◆主な活動(2004年5月16日～9月17日)　下線は南アにおける活動

5/16 作業と会議　西村裕子　野田千香子　関根章博　安部弥生　浅見克則　下谷房道　山下八千代

5/20～ 会報35号編集　野田

5/21 JICAプロジェクト学校訪問　平林

5/28 JICA南ア所長実川氏と会議　平林

5/29 マカドウシ前駐日南ア大使葬儀参列　平林

6/7 ソニー南ア社長蓮沼忠、一時帰国,在日南ア大使館訪問。図書館車プロジェクト説明。

6/9 会議　蓮沼　浅見　北爪健一　野田

6/9 ELETにて会議。　平林

6/11 ンムズンベ高校へ本を寄贈　平林

6/13 元ANC東京代表、EU駐在大使マツィーラ氏来日、図書館車の話　久我祐子　武藤豊　野田

6/15 会報発送作業　井出利栄

6/15 ELETにて会議　平林

6/16 JICA懇談会　安部　野田

6/20～21 KZN州図書館車を視察。州の図書情報部長ンジマンデ氏と協議　蓮沼　平林

6/24,30 ELETにて会議(会計報告)　平林

6/26 クリスチャンアカデミイインターナショナルスクールより本引取り　浅見

6/27 作業と会議　関根　野田　近藤信幸　浅見　下谷

6/28 ハウテン州図書情報部ブシ氏と打ち合せ　蓮沼

6/29 文部次官補ルビシに図書館車展開の説明。教育大臣への提言了解得る　蓮沼

6/30 JICA会計提出　安部

7/7 JICAプロジェクト会合　安部　野田

7/8 ELETへ91箱出荷　安部

7/8 富士見市の車を整備へ　浅見

7/8 商船三井訪問　蓮沼　野田

7/11 作業と会議　野田　西村　浅見　関根　近藤　下谷

7/15 河合塾収集の本と上記9箱合計36箱を北西州教育相とELETへ送る

7/16 JICAの実川氏と会議　平林

7/19 パンドル教育大臣へ図書館車案提言。大臣より南ア現状に最適な方法として、プロジェクトチーム結成、政府内、予算の権限を持つ各州への説明書の作成依頼あり。　蓮沼

7/17 報告会案内を印刷、送付　浅見　野田

7/22 在南ア日本大使館小野氏と草の根無償適用の打ち合せ。　蓮沼

7/23 ELETにて会議　平林

7/24 日本へ一時帰国　平林

8/1 南ア連絡員帰国報告会　平林薫

8/2 ホームページ更新　大久保忠人

8/5 河合塾理事村上義則氏を訪問　野田

8/9 南ア大使館女性の日記念行事に参加　平林　野田

8/16 教育省企画課長マセコ、大臣への提言をフォロー　蓮沼

8/19 プロジェクトチーム(マセコ、ブシ、ンジマンデ)第一回会議　蓮沼

8/19 ミーティング　平林　野田　浅見　関根　安部　荒井理恵　サンディーレ

8/26～9/4 南ア訪問　野田　関根　宮崎敦子(河合塾)　現地同行　蓮沼　平林

8/26 ヨハネス経由西ケープ州へ　野田　蓮沼　関根　宮崎

8/27 ズアール移動図書館と学校訪問　上記4人

8/28 NGO エルギンの移動図書館と学校を訪問　4人

8/29 ダーバンへ　野田　関根　宮崎

8/29 日本から南アへ戻る　平林

8/30 ウルンディ移動図書館と学校を訪問　平林　野田　関根　宮崎

8/31 JICAプロジェクトのHIVピア教育実施の学校を訪問　ELET事務所を訪問　オグル代表と会議

8/31 西町インターナショナルスクールとサンタマリアより本引取り　浅見

9/1 KZN州教育省図書情報部にて会議　プレトリア図書館へ　ブシ・ドラミニ氏と会議　日本大使館にて会議　蓮沼　野田　関根　宮崎

9/2 ベノニのMEIと学校を訪問　JVC津山直子さんを訪ねる　毎日新聞特派員白戸圭一氏と話　野田　蓮沼　関根　宮崎

9/3 教育省教育企画課長マセコ氏と会議　北西州教育省にて、州教育大臣、図書情報部長モリーン氏他と会議　蓮沼　野田　関根　宮崎

9/4 MEI代表ベントレイ氏宅を訪問　4人　野田　関根　宮崎　3人は日本へ　蓮沼はヨハネスへ。

9/17 プロジェクト第2回打ち合せ(大臣へ提出する答申書準備)　マセコ氏　蓮沼